

アート企画「サイエンスとアートの接点」

日 時：12月3日（火）～12月5日（木）9:00～16:00

12月6日（金）9:00～11:00

※会場によって展示時間は異なります。

会 場：神戸ポートピアホテル 本館地下1階 布引、梅、ロビー

神戸国際会議場 3階 ロビー

展示会場1 入口ロビー（神戸国際展示場 2号館1階）

展示会場2（神戸国際展示場 3号館1階）

※アート企画の会場は、12～16頁の会場見取図でもご確認いただけます。

なぜ分子生物学会にアート企画？そう思われたかもしれません。

アルバート・アインシュタインは「もっとも美しい体験は神秘的な体験である。それこそがあらゆる芸術と科学の真の源なのだ」と言っています。自然を観察して描写し、解釈を加えて、自分なりに表現する—その表現方法が違うだけで、サイエンスとアートは実は近いところにあるのかもしれない。いや、常識を覆す活動という意味においては全く同じと言えるのではないのでしょうか。

みなさんも、実験データをどのように可視化するか、モデル図をどのように描くかなど、美的センスが必要とされる場面に日々遭遇していることでしょう。美しい写真や現象、モデル図の威力も日々感じられていると思います。

一方で、アーティストがサイエンスに触発されることで生み出されたアート作品も数多くあります。また、サイエンティストとアーティストとの共同作業によって作品が作られるケースも増えてきています。

今回の年会では、＜サイエンスを表現するためのアート＞、＜サイエンスから生まれたアート＞に触れられる場をつくることで、型にとらわれない自由な発想を再認識できる空間を演出してみました。サイエンスとアートの接点を感じながら、年会という知的活動を是非一緒に楽しみましょう。

企画担当：杉本 亜砂子（東北大学）

入江 直樹（東京大学）

長神 風二（東北大学）

